

令和 7 年度

運営に関する計画

大阪市立大正西中学校
令和 7 年 4 月

大阪市立大正西中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

学校教育目標「人間尊重の教育を基盤に、豊かな心と自ら学ぶ意欲を育て、「生きる力」を育む教育活動を推進する」ことを目指して、生徒とのコミュニケーションを大切にし、常に生徒一人ひとりをしっかりと見つめた「いじめ」のない学校づくり、保護者の理解・協力を培いながらの規律ある生活指導、基礎基本の定着を重視した学習指導に力点を置いて取り組んだ。その成果は、授業2分前入室や授業離脱生徒0の実現、服装・頭髪違反者数や遅刻数や器物破損数の大幅な減少等、様々な面で現れている。しかし、学習面では、授業を大切にする気持ちは高まっているが、基礎・基本の定着には大きな課題が残る。

また、家庭の状況や友人関係など要因は様々であるが、不登校の克服も本校の大きな課題である。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

○令和7年度の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を90%以上にする。

○令和7年度の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を令和3年度より減少させる。

○令和7年度の校内調査において、令和3年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

○令和7年度の校内調査において、「自分にはよいところがある」の項目で肯定的に答える生徒の割合を令和3年度(73%)より向上させる。

○令和7年度の校内調査において、「将来のこと(進路)や生き方について考えたことがある」の項目で肯定的に答える生徒の割合を令和3年度(85%)より向上させる。

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○令和7年度の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を40%以上にする。

○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和3年度より1ポイント向上させる。

○大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を68%以上にする。

○令和7年度の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を52%以上にする。

○令和7年度の校内調査において、「まじめに授業に取り組んでいる」の項目で肯定的に答える生徒の割合を令和3年度(93%)より向上させる。

○食育を推進し、令和7年度の校内調査において「朝食を毎日食べている」に当てはまらない生徒の割合を令和3年度(9%)より減少させる。

【学びを支える教育環境の充実】

○学習者用端末を活用した授業を週1回実施する。

○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を40%以上にする。

○ICT機器の整備と活用を推進し、授業を中心に、すべての学年や学級で生徒がICT機器を活用した活動を行う。

○令和7年度の校内調査において、「学校では、命の大切さや社会ルールについて学ぶ機会が多い」の項目で肯定的に答える生徒の割合を令和3年度(94%)より向上させる。

○令和7年度の校内調査において、「家で学校の授業の復習をしている」の項目で肯定的に答える生徒の割合を令和3年度(55%)より向上させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を83.8%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- 年度末の校内調査において、「自分にはよいところがある」の項目で肯定的に答える生徒の割合を前年度(82.3%)より向上させる。
- 年度末の校内調査において、「将来のこと（進路）や生き方について考えたことがある」の項目で肯定的に答える生徒の割合を前年度(87.9%)より向上させる。
- 年度末の校内調査において、「困ったときに相談できる先生がいる」の項目で肯定的に答える生徒の割合を前年度(87.2%)より向上させる。
- 定期的（年2回以上）の避難訓練や防災訓練を通して防災意識を毎年高め、地域とともに歩む防災・減災計画に参画する。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を35.7%以上にする。
- 中学生チャレンジテストにおける国語の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 中学生チャレンジテストにおける数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。

学校園の年度目標

- 年度末の校内調査において「まじめに授業に取り組んでいる」の項目で肯定的に答える生徒の割合を97.5%より向上させる。
- 食育を推進し、年度末の校内調査において「朝食を毎日食べている」に当てはまらない生徒の割合を9.4%より減少させる。
- 調べ学習や読書活動など主体的な学習意欲を高めるため、昼休みの図書館開館を原則5回とし、昼休みの図書室利用者数を平均15名以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

- 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を96%以上にする。

学校園の年度目標

- ICT機器の整備と活用を推進し、授業を中心に、すべての学年や学級で生徒がICT機器を活用した活動を行う。
- 年度末の校内調査において、「学校では、命の大切さや社会ルールについて学ぶ機会が多い」の項目で肯定的に答える生徒の割合を97.5%より向上させる。
- 年度末の校内調査において、「家で学校の授業の復習をしている」の項目で肯定的に答える生徒の割合を41.1%より向上させる。

3 本年度の自己評価結果の総括

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 大阪市教育振興基本計画に掲げる目標(施策目標)を達成するための年度目標 ○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的に「思う」と回答する生徒の割合を83.8%以上にする。 ○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 ○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。 学校の年度目標 ○年度末の校内調査において、「自分にはよいところがある」の項目で肯定的に答える生徒の割合を前年度(82.3%)より向上させる。 ○年度末の校内調査において、「将来のこと(進路)や生き方について考えたことがある」の項目で肯定的に答える生徒の割合を前年度(87.9%)より向上させる。 ○年度末の校内調査において、「困ったときに相談できる先生がいる」の項目で肯定的に答える生徒の割合を前年度(87.2%)より向上させる。 ○定期的(年2回以上)の避難訓練や防災訓練を通して防災意識を毎年高め、地域とともに歩む防災・減災計画に参画する。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容1 【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 (学校運営) ・安全・安心な教育環境の整備を行い開かれた学校づくりを推進する。 指標 ・ホームページや学校だより・ミマモルメを活用し、積極的に情報発信を行う。	
取組内容2 【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 (学校運営) ・津波や防災の訓練を通して、安全な避難と防災の教育・指導に努める。 指標 ・年2回以上の避難訓練の実施。 ・年度末の校内調査において、「事件や事故、災害が発生したとき、どうしたらよいかわかっている」の項目で肯定的に答える生徒の割合を前年度(90.3%)より向上させる。	
取組内容3 【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 (学校運営) ・学校行事を通じ、人とのつながりを感じられる、いじめを生まない学校づくりを進める。 指標 ・年度末の校内調査において、「困ったときに相談できる先生がいる」の項目で肯定的に答える生徒の割合を前年度(87.2%)より向上させる。	

取組内容4 【基本的な方向2 豊かな心の育成】(道徳心・社会性の育成①) ・特別活動や総合的な学習の時間、道徳の授業を通じて、いじめや仲間はずれを許さない、一人ひとりを大切にする人権教育を実施する。学年や学級での取り組みを充実させ、体育大会や文化祭等の学校行事の中で、その成果を発揮し、充足感を得られる生徒集団の育成を図る。	
指標 ・発見されたいじめ事案を職員全体に共有し、解消した割合を100%にする。人権教育実践や、学校・学年での取り組みに向けて、外部人材の活用を視野に入れ、それによる教育活動を1回以上実施する。	
取組内容5 【基本的な方向2 豊かな心の育成】(道徳教育) ・自らはかけがえない大切な存在であると実感し、他者を思いやる気持ちを育む。	
指標 ・22の内容項目をもれなく満たす授業を年間35時間以上おこなう。	
取組内容6 【基本的な方向2 豊かな心の育成】(芸術鑑賞) ・生徒の自己肯定感の向上に向けた教育活動の充実を図るべく、全校生徒に対し、芸術鑑賞の機会を設ける。また、鑑賞内容は、毎年分野を変更し、3年間に渡り、新しい分野の芸術に触れることができるようにする。 ・今年度は「演劇」分野の芸術鑑賞を実地することで、その内容から登場人物の生き方や想いに触れ、自分自身の生き方についても考えを深める機会とする。	
指標 ・プロによる演技に直に触れ、その演技が人の心に響き、感動させるものであること、また、表現活動の魅力を生徒に感じ取らせ、事後アンケートで行事の満足度・充実度を85%以上にする。	
取組内容7 【基本的な方向1 安全・安心な教育の推進】(道徳心・社会性の育成②) ・基本的生活習慣の定着を図り、規律ある集団の育成に努める。	
指標 ・登下校時の交通安全指導と交通ルールを厳守し、安全なルートでの登下校と交通事故件数「0」を目指す。 ・校内調査における「学校の決められた服装やルールを守っている」の項目について、「当てはまる」と答える生徒の割合を80%以上にする。	
取組内容8 【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】(道徳心・社会性の育成②) ・日々の相談活動を中心とし、生徒個々の生活背景や実態を正しく把握し、生徒理解・課題解決に向け取り組む。	
指標 ・年間2回以上の生徒実態調査と外部講師による生活指導講話を実施する。 ・保護者・地域・関係諸機関との連携を密にするとともに、教職員間でその情報を共有し、組織的に対応できる体制を構築する。	
取組内容9 【基本的な方向2 豊かな心の育成】(進路) ・各学年の発達段階に応じ、キャリア教育を推進し、道徳心、社会性の育成を図る。	
指標 ・学年ごとの指針に従い、年1回のキャリア教育を実施する。	
取組内容10 【基本的な方向2 豊かな心の育成】(特別支援教育の充実) ・障がいの知識や生徒の特性などを教員に定着させる。	
指標 ・年に1回以上障がいの知識や特性などについての特別支援教育研修会を実施する。	

・生徒の特性や発達段階に応じ、各学年会や職員会議で情報共有を行う。 ・支援教育にかかわる研修会に積極的に参加できるよう、職員会議等や skip を活用し、連絡・案内する。	
取組内容 11 【基本的な方向 2 豊かな心の育成】（特別支援教育の充実） ・生徒一人ひとりの特性に応じた授業や日常生活に必要な支援を行う。	
指標 ・生徒の特性や発達に応じ、入り込み指導や抽出指導を計画、実施する。 ・個別の教育支援計画・指導計画を作成し、活用する。 ・学年会や職員会議、または職員朝礼や学年打ち合わせで情報交換をする。 ・生徒の成長に応じた支援の仕方や授業の形式を本人・保護者・特別支援教育担当者と相談し、適宜変更、実施する。	
取組内容 12 【基本的な方向 2 豊かな心の育成】（特別支援教育の充実） ・生徒の様子を普段から観察し、電話連絡や連絡ファイルを通して、保護者と情報を共有する。	
指標 ・家庭からの連絡を受け、情報を共有する。 ・連絡ファイルや入り込みの記録用紙を活用し、学校からの情報提供と提出物の支援を行う。 ・授業内での小テストや家庭学習用の課題プリントによる学力定着をはかる。	
取組内容 13 【基本的な方向 2 豊かな心の育成】（音楽） ・音楽での学びを通し、感性を育み、想像力を膨らませ、豊かな心を養う。	
指標 ・年間に 4 つ以上の音楽のジャンルの音楽に取り組む。器楽を年 2 回取り組む。	
取組内容 14 【基本的な方向 2 豊かな心の育成】（美術） ・美術史の作品鑑賞を定期的に行い、多種多様な思想や表現方法があることを学ぶ。	
指標 ・授業内で美術史等の冊子と制作等の表現活動を分割した授業展開を各学期の半分以上行う。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容 1 ・ 取組内容 2 ・ 取組内容 3 ・ 取組内容 4 ・ 取組内容 5 ・ 取組内容 6 ・ 取組内容 7 ・ 取組内容 8 ・	

取組内容 9 ・ 取組内容 10 ・ 取組内容 11 ・ 取組内容 12 ・ 取組内容 13 ・ 取組内容 14 ・	
次年度への改善点	
取組内容 1 ・ 取組内容 2 ・ 取組内容 3 ・ 取組内容 4 ・ 取組内容 5 ・ 取組内容 6 ・ 取組内容 7 ・ 取組内容 8 ・ 取組内容 9 ・ 取組内容 10 ・ 取組内容 11 ・ 取組内容 12 ・ 取組内容 13 ・ 取組内容 14 ・	

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 大阪市教育振興基本計画に掲げる目標(施策目標)を達成するための年度目標 ○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を35.7%以上にする。 ○中学生チャレンジテストにおける国語の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 ○中学生チャレンジテストにおける数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 学校の年度目標 ○年度末の校内調査において、「まじめに授業に取り組んでいる」の項目で肯定的に答える生徒の割合を97.5%より向上させる。 ○食育を推進し、年度末の校内調査において「朝食を毎日食べている」に当てはまらない生徒の割合を9.4%より減少させる。 ○調べ学習や読書活動など主体的な学習意欲を高めるため、昼休みの図書館開館を原則5回とし、昼休みの図書室利用者数を平均15名以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容1 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(学力向上) ・教材や教具を工夫、活用して、授業を意欲的に受ける生徒を育てる。 指標 ・年度末の校内調査において、「まじめに授業に取り組んでいる」の項目で、生徒の肯定的回答の割合を97.5%以上にする。	
取組内容2 【基本的な方向5 健やかな体の育成】(健康・体力の保持促進) ・生徒や保護者における「食」の重要性に対する意識の向上をめざし、朝食アンケート(食喫食アンケート)を実施する。その結果、「何も口にしていない」の項目に該当する生徒の割合を減少させる。 指標 ・朝食アンケートを前期1回、後期1回のそれぞれ1週間(5日間)実施。1週間(5日間)において「何も口にしていない」に該当する生徒の割合を全校生徒の6%以下に減少させる。	
取組内容3 【基本的な方向5 健やかな体の育成】(健康・体力の保持促進) ・感染症等に対応できるよう、消毒液をはじめとした衛生用品の備蓄を充実させる。また、心肺蘇生やエビペンの使用などの緊急対応ができるよう研修の機会を持つ。 指標 ・緊急対応についての教員研修を年2回行う。	

取組内容4 【基本的な方向 誰一人取り残さない学力の向上】(国語) 文章やグラフ、図表などの情報から正確に読みとる総合的な読解力を身につけ、論理的で説得力のある文章を書く力を養う。適宜、効果的に ICT 機器を用いる。	
指標 - 学期に2回以上、文章や情報を読み取り、要約する授業を行う。 - 学期に1回、文章を書き、グループで発表する授業を行う。 - 年度内に1回、自分が書いた文章を推敲する授業を行う。 - 学期に1回以上、一人一台端末を用いた授業を行う。	
取組内容5 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(国語) 伝統的な言語文化に親しみ、言葉の特徴やきまり・漢字などについて理解し、使う能力を養う。適宜、効果的に ICT 機器を用いる。	
指標 - 週1回、漢字の課題を課し、漢字小テストを行う。 - 文法の確認テストを各単元が終了次第、1回実施する。	
取組内容6 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(社会) - 教材開発や指導方法を工夫し、知識の定着を図る。 - 多様な資料から自ら考え、意見を書く力を身に付けさせる。	
指標 - 週2回以上、自主プリントや副教材を活用して知識を定着させる。 - 教科書や資料集等の統計資料を積極的に使用し、テスト時に20点分以上の思考・判断・表現の問題を出題する。	
取組内容7 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(数学) - 生徒一人ひとりの状況に応じた、学力向上への取り組み。 - 補助教材を活用し、計算問題や文章問題・発展的な問題を解かせる。 - 基礎がまだ十分についていない生徒に対し、基礎学力を定着させる。	
指標 - 定期的に、ノート、プリント、問題集等を提出させ、生徒の理解度を確認する。 1週間に1回以上プリントもしくは問題集に取り組む機会をつくる。 - 定期テスト前を中心に、計画的な補助学習を実施する。	
取組内容8 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(理科) 理科室を整備、器具の補充をし、実験・観察の回数を全学年合計50種類以上行う。	
指標 - 理科室の整備・補充を行う。 - 年間50種類以上の実験・観察を行う。	
取組内容9 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(美術) 生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする。	
指標 作品のアイディアを考えたり完成したりするタイミングに意見交換の時間を設け、生徒同士で意見交換を行う。また、美術史の作品を鑑賞する際対話型鑑賞を用いて進行する。	
取組内容10 【基本的な方向5 健やかな体の育成】(保健体育) 生徒一人ひとりの状況を把握しながら学校園における体力向上に向けた取組を推進する	

指標 ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の同一母集団において昨年度と比較し、2・3年生において体力合計点5ポイント以上向上させる。	
取組内容 11 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(技家) ・言語活動・理解教育の充実を目指し、「主体的・対話的で深い学び」の授業実現をめざす。	
指標 ・指標技術分野において①全学年でプリントを両面印刷しており、主体的にテスト勉強で生かせるようにする。さらに、②授業ではペアワークやグループ活動、調べ学習などの課題を設定しており、その内容に応じ3～4段階で評価する。③実習を含む授業において制作物の仕上げ(完成)はオリジナルの作業や手を加える。2学期から年度末にかけてアンケートを実施して①②③の評価で肯定的な評価を50%以上得る。 ・家庭分野では、全学年で教科書に準拠した授業用プリントを自作し、その中に、内容を振り返り各自の習得内容をまとめる「OUTPUT」記入欄を授業プリント最後に設ける。全授業の60パーセントで「OUTPUT」記入欄があるプリントを製作する。また、授業プリントを提出し、その内容に応じ、3段階で評価する。	
取組内容 12 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(英語) ・英語教育の強化のため、音読に積極的に取り組む姿勢を養う。	
指標 ・C-NETを活用し学期に2度以上音声や会話の個人ごとのテストを実施する。	
取組内容 13 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(英語) ・英語教育の強化のため、学んだことを家で復習し、積極的に自主学習する力を養う。	
指標 ・学期に3回以上小テストを行う。 ・スタディサプリ等を利用し、朝学等で配信を行う。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容 1 ・ 取組内容 2 ・ 取組内容 3 ・ 取組内容 4 ・ 取組内容 5 ・ 取組内容 6 ・ 取組内容 7 ・ 取組内容 8 ・	

取組内容 9 ・ 取組内容 10 ・ 取組内容 11 ・ 取組内容 12 ・ 取組内容 13 ・	
次年度への改善点	
取組内容 1 ・ 取組内容 2 ・ 取組内容 3 ・ 取組内容 4 ・ 取組内容 5 ・ 取組内容 6 ・ 取組内容 7 ・ 取組内容 8 ・ 取組内容 9 ・ 取組内容 10 ・ 取組内容 11 ・ 取組内容 12 ・ 取組内容 13 ・	

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 大阪市教育振興基本計画に掲げる目標(施策目標)を達成するための年度目標 ○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。 ○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を96%以上にする。 学校の年度目標 ○ICT機器の整備と活用を推進し、授業を中心に、すべての学年や学級で生徒がICT機器を活用した活動を行う。 ○年度末の校内調査において、「学校では、命の大切さや社会ルールについて学ぶ機会が多い」の項目で肯定的に答える生徒の割合を97.5%より向上させる。 ○年度末の校内調査において、「家で学校の授業の復習をしている」の項目で肯定的に答える生徒の割合を41.1%より向上させる。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容1 【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】(学力向上) ・ICT機器を多くの場面で活用し、授業を意欲的に受ける生徒を育てる。 指標 ・全教員が年1回以上の研究授業と年2回以上の授業見学を実施する。 ・授業はいつでも見学できることとし、ICT機器活用方法の相互研鑽を行う。	
取組内容2 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(学力向上) ・学校図書館の活用を促進し、読書好きな生徒を増やして、言語力の向上に繋げる。 指標 ・学校図書館の開館を原則週に5回以上行う。 ・学級文庫を全教室に常置する。 ・昼休みの図書室利用者数を平均15名以上にする。	
取組内容3 【基本的な方向6 教育DXの推進】(進路) ・生徒が自分の進路を見つけられるように情報の探し方を学習し、ICT機器を活用した進路学習・活動を行う。 指標 ・各学年において、職業や進学先について、ICT機器を活用した調べ学習を行い、自分の進路について考えを深める取り組みを1回行う。	

取組内容 4 【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】（進路） ・進路情報を収集し、生徒・保護者に適切な情報を提供する。 指標 ・進路説明会を年 3 回行い、うち 2 回は生徒も参加させることで、生徒・保護者がともに当事者としての意識を持ち、協力して進路について考えていくよう促す。 ・進路情報を周知するとともに進路への意識を高めるため、進路通信を毎月発行する。	
取組内容 5 【基本的な方向 6 教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】（社会） ・ I C T 機器を使用し、デジタル教科書や視聴覚コンテンツを活用して、授業を意欲的に受ける生徒を育てる。 指標 ・ 7 5 % 以上の授業で、デジタルコンテンツの活用機会を設ける。	
取組内容 6 【基本的な方向 6 教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】（理科） ・生徒用タブレットを活用して、各学年、年 1 回調べ学習を行う。 指標 ・各学年、年に 1 回、I C T 機器（タブレット）を用いた調べ学習を行う。	
取組内容 7 【基本的な方向 6 教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】（美術） ・生徒が I C T 機器を活用した授業を行い、より広い視野で感性を向上させる。 指標 ・各学期の半分程度、I C T 機器を活用した授業を行う。	
取組内容 8 【基本的な方向 6 教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】（技家） ・一人 1 台端末の環境を生かし、最適な学びと協働的な学びの実現に向けた取組を実施する。さらに地域の文化に触れるような学習を取り入れる。 指標 ・技術分野において、材料の加工もしくはデジタル（PC）、他、技術の授業で制作した作品を文化祭で展示発表する。さらに、生徒が思考・工夫したことを表現する課題や P C を利用した調べ学習などの課題を実施する。 ・家庭分野では、一人 1 台端末を利用し、授業での調べ学習を行う。また、調べた内容を授業内で発表する機会を設け、生徒の思考・工夫したことを表現できる場を設定する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容 1 ・ 取組内容 2 ・ 取組内容 3 ・ 取組内容 4 ・ 取組内容 5 ・ 取組内容 6 ・	

取組内容 7 ・ 取組内容 8 ・	
次年度への改善点	
取組内容 1 ・ 取組内容 2 ・ 取組内容 3 ・ 取組内容 4 ・ 取組内容 5 ・ 取組内容 6 ・ 取組内容 7 ・ 取組内容 8 ・	